横浜陶芸友の会だより

第１７３号
平成３１年
４月１日発行

「情報の輪を広げよう」

横浜陶芸友の会 会長　高橋光男

少しずつ暖かくなってきて作品作りに精を出す今日この頃ですが、皆様いかがお過ごしですか。

新春恒例の作品展には素晴らしい作品が展示され、作品にまつわる情報交換もあちこちで見られ和やかな雰囲気でした。

陶芸を趣味としている仲間がワイワイと交流を深めることができるのは最高に幸せですね。

どうか新入会員を増やして新しい情報を発信できる輪に加わって、その輪がますます広がり友の会の発展につながればと考えます。

催しを含め、皆様の作陶活動に多くの支援を役員一同考えていますので、ご協力のほどよろしくお願いいたします。

総務部より

「役員会の報告」

○2月23日（土）15時30分より
会長・副会長・各部役員9名で話し合いが行われました。

（事業部より）・「第40回作品展」の報告
（専修部より）・秋期焼成会
「ねずみ志野」予定
（広報部より）・「友の会たより」
3月末発行予定
（会計部より）・年会費納入の確認
※各部3月末締メで会計報告の提出
（総務部より）・「友の会たより」の発送
※退会を申し出された方
・浜野寿子さん　・戸井田香代子さん
・武井 宏さん
☆新規入会者がありました
古河内 滋子さん　です

次回の役員会
4月27日（土）　15時30分より
（杉田地区センター4階 集会室A）
・平成31年度総会に向けての準備

【総会のお知らせ】

5月18日（土）　15時より
（会場）杉田地区センター4階
（最寄駅）京浜急行杉田・JR新杉田
※各行事についての、御意見・ご要望等を話し合う良い機会ですので、多数の方のご出席を、心よりお待ち致しております。

「寒河江先生」が作品展にみえました

寒河江先生は「横浜陶芸友の会」創設時に指導していただいた先生で、現在もこの会の顧問としてご協力いただいています。

先生は、今回の作品展が40回の節目と知り、埼玉県の大宮からお兄様にお願いをして会場までお見えになられました。

何時までもお元気で、この会を見守っていただきたいですね。

ありがとうございました。

第四〇回「作品展」　事業部報告

会員皆様方のご協力をもちまして「第四〇回作品展」も無事、終了することができました。

ありがとうございました。

会も高齢化が進み退会する方も増え出展者数が昨年に比べ、更に少なくなりました。

皆様が元気で作陶に励み出展され、これからも「作品展」が続くことを期待しています。

【事業報告】

（会期）平成31年1月8日（火）～13日（日）

（会場）　かなっくホール3階ギャラリーA

（来場者数）３９５名（昨年５５２名）

（出展者数）24名（昨年27名）

（養護学校）１校（聖坂養護）

（出展数）240点（養護・特設数含む）（昨年３２０点）

・特設コーナー「飯茶碗」18点

・懇親会参加者数　9名

・芳名帳カード記入者数　167名（昨年２５０名）

・その他

〇来年度の特設コーナーの課題は**「一輪差し」**です。昔の作品でも特設コーナーだけでも出展できます。

（事業部）

特設コーナー「飯茶碗」

専修部より

専修部　秋期焼成会コーナー

30 年度「飛びカンナ」

「秋期焼成会について」　専修部

今年の秋期焼成会は**「鼠志野」**です。

志野は本来**穴窯にて5～6昼夜**と、焼成に長い時間を要します。

ゆっくり温度を上げていき釉の溶け具合を見て、それからゆっくり冷ます。

これを何とか**ガス窯にて全行程43時間**で行いたいと思います。

ですので、多少無理がある焼成とは承知の上で挑戦したいと思います。

☆1月の「作品展」時見本を紹介しましたのでこれに賛同された方の参加を募集します。

窯に制限がありますので**左記要領にて予約**していただきたいと思います。

尚、**焼成日程**については

7月の会報にて掲載しますが**9月上旬受付予定**です。

受付時には乾燥済みの作品をお持ちください。

・焼成費は2,000円/1kgの予定。

・また素地についてですが、「五斗蒔土」「志野土」「もぐさ土」が良いと思います。

◎（陶芸 shop.com では４kgから販売しています（参考まで））

記

１、参加希望者氏名

２、電話番号

３、焼成重量（大体で結構です）

＊上記ご記入していただき、郵送またはFAXにてお願いいたします。

『第40回　作品展』紹介 ①

今回も出展者全員の出展作品を、ご紹介いたします。思い出しながらご覧ください。
お話や原稿をいただいた皆様の御協力、誠に感謝いたします。
一度に掲載できませんので、3回に分けて掲載いたします。

「聖坂養護学校」生徒作品

「今年の作品」　下村武子

・絵皿（阿蘭陀模様）　透明釉
・割山椒　ルリ釉薬
・花入れ　①ブルー釉　②透明釉
・コーヒーCup　透明釉
・土瓶　透明釉
・飯椀　透明釉

「今年の一品」　高橋光男

○「輝（ひび）化粧」について、お聞きしました

「輝化粧」（素焼きの器に白化粧。
化粧土の収縮を活用）
貫入ではないので汚れは皆無

器を素焼きして白化粧土を掛けると、何度でも掛け直しができます。
この「輝化粧」は750℃で素焼きをした物を水で濡らし生掛けに近い状態にして白化粧土を掛けます。シワシワになる乾燥時期を見極めて透明釉を掛け焼成します。透明釉の水分は影響せず輝はそのまま残ります。
乾燥しすぎると化粧土がめくれて剥がれるので全部洗ってやり直します。
この作品を作るのにテストピースで20回位試してから焼成しました。
貫入ではなく透明釉が掛かっているので、茶渋等の汚れが着かないのが良点です。
「片口」は生掛けの刷毛目作品です。
素焼き用と生掛け用で白化粧土の分量は少し変えてあります。

「今年の一品」　吉良　謙

「③天目・白萩の掛け合せ茶碗」について、お話を伺いました。

「茶碗」
①志野　電気窯　②萩　炭化
③信楽　天目・白萩掛け合せ

③

①

②

白萩と天目を掛け合せて炭化で焼いた時に出てくる青色を狙っているのだが、なかなか色が出ない。炭化の方法はサヤの下に有機物（もみ殻やコーヒーかす）を入れ1250℃で焼いている。二つの釉薬をかけるとヒビ割れが入るが、そのまま焼くと縮れが出る。それが出るとラッキー。サヤのひび割れなどの隙間があると酸素が入り面白い模様ができる。
①志野茶碗の内部の黒い粒は釉薬ではなく土のせいで出てきたもの。
土は削りかす（五斗蒔・もぐさ土・信楽等々）を水被したものを使っている。
②萩茶碗は萩釉をかけ、炭化にしたら艶消しのあまり赤くない色になった。

「今年の作品」　鈴木和子

（信楽　穴窯焼成　自然釉）
・陶板　・大鉢　・片口　・ぐい呑み6個
・花器（小）2個　　・耳付き花器2個
・茶碗　備前　穴窯焼成　自然釉
・茶入　備前　木の葉焼締め

窯内の置き場所による色違い

「40周年作陶展」に向け窯焚き仲間の状況に合わせ「穴窯は今回が最後」と言い合わせ、何時もの事ながら同じ土の作品が窯内の置き場所により、白黒位い違う焼き色と灰被りの違いを見て欲しく、作品の展示を致しました。

茶入れは、備前土に、椋の葉を目土で被し、木の葉焼締めにしたところ、何とか葉形が出ました。

最後の窯焚きと思いきや「元気だったら2年後に焚こうよ」と誰かの声。
どうなりますか楽しみです。

「今年の作品」　兜森直子

「壺」　自然釉
大きさの割には とても軽く
灰のかかり具合や色も
美しい素敵な作品でした

「めで鯛　皿」　清水あや子

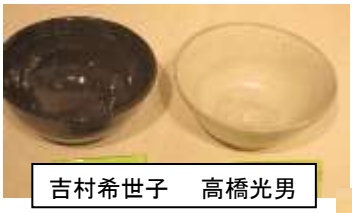
磁器土；呉須下絵　透明釉

今年も鯛にこだわりましたが、昨年は全体に色が濃すぎたので、今年は薄めを意識したら、薄過ぎて迫力のない鯛になってしまいました。(何回も焼成して実験しないとだめですね。いつもながらの反省・・・)

※言い訳になりますが、今年は元気の出ない一年でした。元気の無い時の作品は、やはり元気のない作品になるのですね。

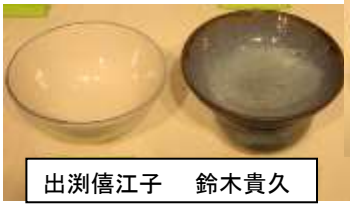
来年は、元気な鯛が描けるかな？？・・・

特設コーナー「飯茶碗」

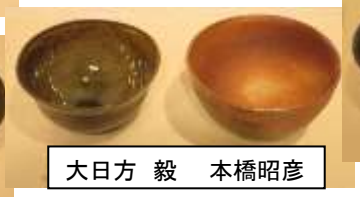


吉村希世子　高橋光男

深川貴子　下村武子



出渕僖江子　鈴木貴久



大日方　毅　本橋昭彦

吉川　勝　貝森俊司

井上　明　鍋島弘義

逢阪博樹　鈴木早苗

川島幸子　池見千枝子

鈴木和子　徳植美和恵

「今年の作品（赤富士）」　逢阪博樹

○毎年、呉須による陶板が出展されていましたが今年度はガラス絵になりました。

しかも、高温で色が飛んでしまう「赤」が綺麗に出ているので皆さんの関心を集め「作品紹介」でも、話が盛り上がりました。

・ガラス絵（赤富士）　白土　色ガラス

・花活け　焼締め　黒御影　信楽

・中皿（飛びカンナ）　黒御影　透明釉

「逢阪さんのお話」

これは粘土を伸して、色ガラスを埋めただけの物なんですが、皆さんから赤いガラスの質問が多く出ました。

業者に聞いても「赤は1000℃で色が飛んで透明になる。」と、言われました。

この赤い材料は沖縄旅行の時、琉球ガラスの工房で破片を売っていたのを赤だけより分けて買ってきました。

テストピースを焼いてみたら、見事に色が飛び透明になりました。

「赤が出なければ白富士でもいいかな。」と。

一か八かで残りの材料を全部入れ1230℃で焼いてみたら首尾よく色が出ました。

所々白くなっている所は色が飛んだ所です。

白い輪郭線の所はガラスが流れて他と交わらないための防波堤で地の粘土の白色です。

実は、最初、輪郭線に呉須を塗ってみたらガラスに混じると全部黒くなってしまった。

そこで今度は鬼板を塗ってみたらガラスと混じって色が飛び、地の白が残ったもので、まさに「怪我の功名」でした。

いちばん外側のガラスがあまり交わらなかった部分は鬼板の色が出ています。

工程としては、①粘土を伸して②半乾きの時に（翌日）半分ほど掘り、③素焼きをして、④色ガラスを埋め、⑤本焼きをしたもので、延べ時間にすると5日間でできました。

後の色は、生活用品のビールや日本酒の色を使っています。

○皆様も、ガラスに挑戦してみませんか。

来年度は、何が出てくるか楽しみですね。

「今年の作品」　川島幸子

＜灯油窯で焼成＞

①サラダボウル　ネイビーブルー　黄瀬戸

②花器　美濃赤　粉引き生掛け　透明釉

③花器　黄瀬戸　織部　鉄釉

④飯椀　益子　粉引き生掛け　透明釉

⑤飯椀　黄瀬戸　織部　透明釉

⑥人形　美濃赤　透明釉・織部・焼締め

この織部の花器の柄は大きくしたかったが手頃なのが無くて地味になってしまいました。

お人形さんは時間や、土が余った時に作っていますが、作っても作っても、すぐにお嫁に行っちゃうので、毎回作っています。

今回のは、焼締めたものと織部をかけたものの透明釉をかけたものを出しています。

サラダボウルは、外側には黄瀬戸を掛け、内側には暗いネイビーブルーの釉薬をかけています。

粉引きは勢いよく刷毛目が出ました。

陶陶さん

第９５号

あかほし

「今年の作品」　須藤芳弘

「四角皿」「花器」　穴窯焼成　自然釉　信楽赤70%・黒土30%
「器A・B」信楽赤　穴窯焼成　自然釉　「器　C」　信楽赤　電気窯
「マグカップ」　穴窯焼成　自然釉　「ぐい飲み」穴窯焼成　自然釉
・「四角皿」の花模様が丹念に彫り込まれ色にも変化があり、お話を伺えなったのがとても残念でした。
・「花器」も、おしゃれなリボンが貼られ、活けるとると映えそうです

「今年の作品」　鈴木早苗

・つる付き花瓶（ドライフラワー・バラ）
　黒土　乳白釉　電気窯　酸化焼成
・焼締め　ビアカップ（5個）
　備前土　電気窯　酸化焼成
（特設コーナー）　飯茶碗　磁器練り込み

【編集後記】

・今の家に住んで11年になります。その時植えた利休梅の樹が桜の開花に先駆けて、毎年３月中旬頃、一斉に白い花を咲かせます。
先日、ひと枝掃い、自作の壷に生けたら、玄関が一挙に春めきました。　大日方

・このところ身辺の整理しております。いろいろ焼いたものの、残すと家族が始末に困る物を先に処分しております。
家内の作った一輪挿しは残すことにして、年明けの作品展「一輪挿し」に出しても良いものかどうか思案しております。　季楽軒

・この会報の編集が終わる頃、会長からメールが届きました。なんと、新会員が入会したとの連絡です。（お名前は総務部の所です）
なんとも嬉しいニュースですね。　鍋島

ホームページもチェック!!
横浜陶芸友の会
検索
http://www20.atpages.jp/tomonokai/

横浜陶芸友の会だより
第 173 号
（平成 31 年 4 月 1 日発行）
発行人　横浜陶芸友の会